



図3. 伊賀市産シジミガムシ亜属2種の前胸背(一部を拡大). 左: ユーラシアシジミガムシと判別した雌個体, 右: ミユキシジミガムシと判別した雌個体.

【ミユキシジミガムシ】: 1♂1♀, 18. X. 2008, 北野採集; 1♂3♀♀, 13. IX. 2011, 苅部採集; 12♂♂7♀♀, 7. X. 2018, 北野採集; 15♂♂15♀♀, 27. X. 2018, 北野採集; 7♂♂4♀♀, 27. X. 2018, 秋田採集.

シャジクモ類やコナギなどが生育する休耕田わきの浅い湿地(図4)やクログワイ, チゴササ, コアゼガヤツリなどが生育する貧栄養な池の岸際から得られたが, ミユキシジミガムシと比較して個体数は少なかった. なお, 兵庫県の生息地でもミユキシジミガムシと混生しているが, そこではユーラシアシジミガムシのほうが水深の深い水域を好む傾向があるという(上手・森, 2018). 一方, 今回本種が確認された三重県の生息地では, ユーラシアシジミガムシが深い水域を好むという傾向は特に見受けられなかった. また, 兵庫県・三重県いずれの生息地においても両種は混生していることから, ミユキシジミガムシが産する他の地域でも, ユーラシアシジミガムシが生息している可能性がある.



図4. 伊賀市におけるユーラシアシジミガムシがみられた湿地.

末筆ながら, 本発表を勧めてくださった上手雄貴(名古屋市衛生研究所)・中島淳(福岡県保健環境研究所)の両博士と, 本報の作成にあたり様々なご助言をいただいた森正人氏(環境科学大阪株式会社)にお礼申し上げる.

#### 引用文献

Hansen, M., 1999. Hydrophiloidea (Coleoptera). World Catalogue of Insects, 2: 416 pp. Apollo Books, Stenstrup.

上手雄貴・森 正人, 2018. 日本初記録のユーラシアシジミガムシ. さやばねニューシリーズ, (29): 20-22.

(北野 忠 259-1292 平塚市北金目4-1-1  
東海大学教養学部)

(西原昇吾 112-8551 文京区春日1-13-27  
中央大学理工学部)

(苅部治紀 250-0031 小田原市入生田499  
神奈川県立生命の星・地球博物館)

(秋田勝己 514-1136 津市久居東鷹跡町170-2)

#### 【短報】ヘリアカデオキノコムシの沖縄島からの初記録

ヘリアカデオキノコムシ *Scaphidium reitteri* Lewis, 1879 は, 神戸市摩耶山を基準産地として記載され, これまで本州, 四国, 九州, 対馬, 奄美大島から記録されている(Lewis, 1879; 柴田ら, 2013). もっとも, 保科(2006)は奄美大島における本種の分布については疑いがあるとしていたが, その後発見された奄美大島産同種の雄個体の調査により, ヘリアカデオキノコムシの同島における分布は確実であることが示された(保科, 2015).

筆者の一人である杉野は, 1975年に沖縄島北部の与那覇岳で本種とおぼしき1♀を採集した. こ

の個体の外部形態には本土産との大きな違いは見られなかった。2018年になって筆者の一人である藤川ならびに松村も沖縄島北部の複数の地点で本種と思われる *Scaphidium* を多数採集したが、これらの標本については全て背面の黒斑紋など外部形態の特徴の一部が本土産の本種とは異なっていた。そこで、これらの標本の調査を保科英人氏に依頼し見解を求めたところ、以下の回答が得られた。

- 1) 沖縄島産のほとんどの個体は体長4 mm 弱で、5~6 mm の本土産に比べて明らかに小さい。
- 2) 沖縄島産個体の前胸背板や上翅の黒斑紋は、本土産のそれらと比べて小さめ(図1, 2)。
- 3) しかし1975年に得られた1♀(図3)は、体長こそ本土産に比べやや小さい4.3 mm であるが、前胸背板や上翅の黒斑紋の大きさは本土産とあまり変わらない。
- 4) 分類形質として重要な♂交尾器の内袋骨片の形質は沖縄島産と本土産の間にほとんど違いは見られない。
- 5) やや小型の体長や背面の斑紋の大きさから、沖縄島産ヘリアカデオキノコムシは、本土産とは明確に異なる形態的特徴を持つ地理的集団と思われる。しかし、斑紋に関しては本土産とほぼ変わらない杉野採集の1♀が存在する以上、亜種として位置付けるのは適当ではない。



図1. 本土産ヘリアカデオキノコムシ。



図2. 沖縄島産ヘリアカデオキノコムシ。なお標本では黒色紋を除く背面は図のように赤褐色になるが、生時はより色が明るく黄褐色である。

3) やや小型の体長や背面の斑紋の大きさから、沖縄島産ヘリアカデオキノコムシは、本土産とは明確に異なる形態的特徴を持つ地理的集団と思われる。しかし、斑紋に関しては本土産とほぼ変わらない杉野採集の1♀が存在する以上、亜種として位置付けるのは適当ではない。

以上に従い、筆者らは沖縄島から採集した *Scaphidium* を同島初記録のヘリアカデオキノコムシと同意定して、ここで報告する。

1♀, 沖縄県国頭郡国頭村与那覇岳, 30. IV. 1975, 杉野廣一採集・保科英人保管。

2♂2♀, 沖縄県国頭郡国頭村伊地大  
国林道, 17. XI. 2018, 松村雅史採集・保科英人保管。

3♂5♀, 沖縄県



図3. 沖縄島産ヘリアカデオキノコムシ(杉野採集)。筆者らの確認した標本の中では唯一の本土型の斑紋を持つ個体である。

国頭郡国頭村伊地, 28. XI. 2018, 藤川浩明採集・♀藤川浩明保管・♂保科英人保管。やや乾燥した広葉樹立ち枯れより噴霧法で得られた。

8♂4♀, 沖縄県国頭郡国頭村辺野喜, 27. I. 2019, 藤川浩明採集・保管。湿ったスダジイ倒木より噴霧法で得られた。

以上4地点のいずれも沖縄島北部のスダジイが優占する広葉樹林である。藤川と松村の採集地点においては周年を通して枯死木への噴霧法による採集を実施していたが、本種を得られたのは秋期から冬期に限られていた。

なお、奄美大島産ヘリアカデオキノコムシは上翅点刻が本土産のものに比べて大きいことが知られているが(保科, 2015), 沖縄島産個体も大きめの点刻を有している。また、前胸背板や上翅の黒斑紋の小ささや約4 mm との体長も奄美大島産と沖縄島産に共通の特徴であり、同種の琉球列島内での形態分化はほとんど見受けられない。

末筆ながら、標本を調査して頂いた福井大学の保科英人博士に厚く御礼申し上げる。

#### 引用文献

- 保科英人, 2006. 琉球産鞘翅目ハネカクシ科デオキノコムシ属概説. 甲虫ニュース, (155): 11-15.  
保科英人, 2015. 奄美大島産デオキノコムシ属続報. さやばねニューシリーズ, (20): 46.  
Lewis, G., 1879. On certain new species of Coleoptera from Japan. LIII. Annals and Magazine of natural History, 4: 459-467.  
柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録(昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69-218.

(藤川浩明 905-0011 名護市宮里7-21-9)

(松村雅史 901-1303 島尻郡与那原町与那原3219-9)

(杉野廣一 663-8003 西宮市上田市4丁目1-11)